

日刊 動労千葉

84.9.14
No.1743

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七



今こそ発揮しよう 動労千葉の真価

あいさつに立つ中野委員長(9月12日)



「動労千葉の真価を
今こそ発揮しよう」

第9回定期大会
中野委員長あいさつ

(前号「速報1」より続き)

労働組合は闘うことによつてのみ労働者の支持がえられることは動労千葉のジェット闘争が証明している。情勢は第二の「813」を要求している。また三里塚をめぐる情勢も決戦局面を迎えている。支配者の全力をあげた「国策」の名による暴力的圧殺攻撃に19年間にもわたって原則を守り対

決し勝利してきている闘いが日本に他に存在するの。もし三里塚が敗北するようなことがあれば、先日来の、全斗煥戒厳令、が如実に示したように、中曽根の力サにかかった「戦後政治の総決算」をかけた軍事大団化・改憲、戦争と反動と暗黒の道を阻止することは非常に困難となることは目に見えている。来たる「10.10」の闘いを、「3.25」を上回る力で成功させ、今秋二期着工を阻止しよう。攻撃の算は厳しいものがあることはたしかだ。しかし国鉄労働者は決して背骨をうちくだかれ

てはいない。座して死を待つより起つて闘おうとの戦闘的気概は充満しつつある。問題はそれを指導する勝利の路線と指導力、組織力である。ゆが動労千葉がその真価を発揮する絶好の情勢が到来している。今大会で全組合員の全習全能をかたむけ、進むべき道を確認しよう」とあいさつした。全代議員・傍聴者は、この確信あふれる中野委員長の提起を圧倒的拍手で確認し、大会のちかちかするべき目標を鮮明にし、議事に移っていった。

動労千葉こそ全国の労働運動を 領導してほしい

多くの来賓から
激励のあいさつ

つづいて多くの来賓の方々のあいさつをうけた。県労連・井原議長、国労千葉地本委員長であり県交運議長の本吉氏、社会党県本部を代表して市川副委員長、千葉県選出衆参国会議員上野、小川、新村、赤桐、糸久の各氏(含代理)、を代表して参院議員の糸久八重子氏、安房地区労

の辻田実氏等から、首切り「本柱」を中心とする中曽根内閣・国鉄当局の攻撃に対し、労働者階級の誇りと良心にかけて断固として闘いぬき日本の戦闘的労働運動の再生のため動労千葉こそその最先頭にたつて領導しぬいてほしいと訴えられた。

(裏へつづく)

関川宰氏、山岸昇氏 組合表彰ける



左から、表彰をうける山岸氏、関川氏、右端、演壇は、表彰事由を紹介する水野副委員長。

〔第一日目午後〕

午後の冒頭、高橋県議のあいさつにひきつづき多くの激電・メッセージが紹介され、関川前委員長と幕張支部の山岸昇氏に対する組合表彰が行われ、蒞場の拍手の中、両氏に表彰状と記念品目録が贈られた。

交通事故を理由に不当解雇され「守る会」を結成して聞いている鈴木幹男氏の報告とありさつの後、山口副委員長から「経過報告」、森内交渉部長から「労働協約・協定締結」、水野財政部長・副委員長から「会計報告」、小幡会計監査員から「会計監査報告」が行われ、そのち質疑に入った。

（以下、続く）

とりわけ、すでに決戦途中にある三里塚、芝山の現地から反対同盟を代表して北原鉞治事務局長、島村良助本都役員、鈴木幸司本都役員、平山賢行動隊長がかけつけられ、代表して北原氏よりあいさつとアピールをうけた。

北原氏は、「労働運動が原則を死守して徹底抗戦する姿勢を失っている中で、唯一労働千葉が全国の労働者の先頭で闘いぬいている姿は労働者の希望の星だ。三里塚は成田用水攻撃をめぐり二期着工の動きが強まり決戦局面を迎えているか、全ゆる力を結集して必ず実力阻止し勝利する。」

9.16から10.10の全国集会に労働千葉の皆さんの総力結集をぜひともお願いしたい」とあいさつし、満場の拍手がこれにこたえた。

さらに動労千葉支援共闘会議代表世話人の浅田光輝氏、全金本山労組の長谷副委員長、東京実行委員会を代表して国枝夏夫氏、同じく東京実行委であり支援基金事務局の代表でありかつ動労千葉労働学校学長の高島喜久男氏、OB会を代表して関川宰事務局長、そして多くの県議会・市町村議会議員の方々が代表して中江昌夫船橋市議・動労千葉顧問からあいさつと激励をうけた。



各界から多くの来賓の方々が激励にかけつけられた。